

令和2年度第3回自立支援協議会こども部会 議事要旨

1. 開催日時 令和3年1月26日（火）書面開催

2. 出席者（委員）＊団体名のみ記載

教育研究センター（リーダー）、NPO法人千楽（サブリーダー）

浦安手をつなぐ親の会、浦安市自閉症協会、

千葉発達障害児・者親の会「コスモ」浦安グループ、

浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」

一般社団法人こども未来共生会、NPO法人かぶあ

社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとも、特定非営利活動法人ワーカーズコープ

NPO法人発達わんぱく会、社会福祉法人なゆた、NPO法人アリスのうさぎ

スマートキッズ株式会社、千葉県立市川特別支援学校、千葉県立船橋夏見特別支援学校

千葉県立浦安高等学校、浦安市立小学校長会、浦安市立中学校長会、こども課

こども発達センター

（事務局）障がい事業課、障がい福祉課

3. 議題

（1）第4回自立支援協議会の協議内容の報告

（2）第2回こども部会 作業部会の報告

（3）令和元年度・令和2年度こども部会の振り返り

（4）その他

4. 配布資料

議題1資料 第4回浦安市自立支援協議会（令和2年11月26日（木））報告

議題2資料 第2回こども部会 作業部会の報告

議題3資料 令和元年度・令和2年度 こども部会の振り返り

議題4資料 意見募集概要

5. 議事概要

(1) 第4回自立支援協議会の協議内容の報告

■説明

第4回の自立支援協議会の内容について、事務局より報告をおこなった。

■主な意見

委：学習支援でミッテを使い始めていたので、おおよその概略は理解していたが、詳しい機能が聞けてよかった。

委：地域生活支援部会の「主な質疑」について、ミッテを使い勝手の良いものにしていただきたいとあるが、就労支援B型が終わってからも利用できるよう、開放時間が午後6時までとなると紹介しやすい。また、医師の診断書でなく、受給者証又はそらいろルームの紹介状等で利用が可能となれば利用しやすいと思う。

委：地域生活支援拠点の「緊急ショート」の対応案件の概要があったが、個人情報に配慮しながら、どのような案件だったのかを報告があると、今後の緊急時の利用についての参考になるのではないかと思う。

委：第2回地域生活支援部会に示された「WheeLog!」というアプリを活用してみたいと思った。

(2) 第2回こども部会 作業部会の報告

■説明

前回の第2回こども部会の作業部会（コロナ禍における水害発生時の課題について話し合う）について、時間内に報告できなかった各グループの意見を報告した。

■主な意見

委：「身体障がいのあるこどもの課題」に、「避難所の非常食において、普通食の摂取が難しい場合に対応できる食品の準備」と「身体だけではないですが、興奮状態になり奇声を上げてしまう場合の周囲への対応や、本人を落ちつかせる場所の提供」を付け加えたい。

委：「知的障がいのあるこどもの課題」にある、「マスクができないこと」や「マスクができないことに対する周囲の理解」だが、事業所でも、マスクができない利用者さんが大変多くいるが、マスクの使用が「当たり前」になっている昨今、この状況を周囲に受け入れてもらうことはとても根気のいる作業だと感じた。

委：コロナは本人の特性だけでなく、ウイルスという見えないものからくる心の問題（強迫性）との関わりや、感覚過敏との関わりなどがあるので、障がいの種類に関わらず、「安心した暮らし」の為にマニュアルや心のケアについての学校や施設でのとりくみが必要だと思う。

(3) 令和元年度・令和2年度こども部会の振り返り

■説明

令和元年度・令和2年度のこども部会での協議内容や成果の報告と、令和3年度以降の課題や議論する必要のある事項について意見を伺った。

■主な意見

委：事例検討の継続はとても良いと思う。

委：子ども部会の対象となるこどもの範囲が明確でない気がする。保育園や幼稚園の頃は障がいや疾病が曖昧であったり、単に成長がゆっくりなこどももいる。また、幼児～学童期にかけても、いわゆるボーダーといわれるこどもたちも多く存在するので、そのことは全員で一度確認した方がいいと思う。そうすることで、今後サポートファイルをどのように活用するか、どこに配布するかも範囲が違ってくると考える。

委：療育や教育委員会との連携、学校との連携の方法など課題は盛りだくさんだと思うので、現場の困り度に目を向けていくことが必要だと思う。

委：相談機関、教育機関、福祉事業所などから、適切な議題の提案をお願いしたい。例えば、サポートファイルについて、これまでは利用する家族の体験談を聞くことが多かったが、学校や支援機関からも意見を伺いながら支援体制の充実を図ればと思う。

委：サポートファイルは、特に高校生世代以降の支援が手薄になることを学習支援事業を行っていることから痛感していたので、サポートファイルの取り組みは重要と考えるが、まだまだ、認知も含めて足りないように思う。

委：サポートファイルについては、内容も充実した立派なファイルだと思うが、渡す所までで終わっている感がある。事業所からの声かけや、事業所間で共有していく姿勢が必要だと思う。

委：子ども部会の目的の部分で、「生まれてから 18 歳になるまでのこどもへの支援」とあるが、2022 年に成人の年齢が 18 歳からになることも踏まえて、その年齢の概念より、「親がいて、そのこども」という 8050 問題も視野に入れた「こども」に対する協議が重要なのではないかと感じた。

委：教育・福祉の連携に「医療」も含めた上での議題提起をしていくこともあっていいのではないかと。福祉の現場で勤務していると、教育・福祉の連携だけでは対応しきれず、「医療」へのアプローチをしなくてはいけない場面も目にしてきた。その連携がスムーズにできていれば、常に関わり合いをしなくても、何かあった時にすぐに対応ができるのではと思った。

委：連携については、学校と地域だけでなく医療との関係も大切だと思う。そらいろでは多くの医療と連携を増やしている。学校、医療、関係機関の連携を続けてほしい。

(4) その他

■説明

浦安市障がい者福祉計画（素案）の市民意見提出手続の概要について報告。また、その他、子ども部会に関するご意見を伺った。

■主な意見

委：「障がい者福祉計画」の概要版もあると良いのではないかとと思う。

委：子ども部会の議題や時間設定を見直した方が良い。報告や説明などは配布物でも可能。

委：コロナの影響で、さまざまな問題で困っている人が多いであろう中、話し合う機会が減ってしまったことは残念。将来的なことを考え、どんな状況下でも困り事を相談できる仕組み作

りが必要だと思う。

委：協議会や部会の協議内容が、実際に福祉の現場で活かされるような、事業所で働く一人ひとりの職員さんが変化や成果を実感できるような協議をしていくことが必要だと思う。

委：書面開催というのは、あまり「参加」する意識を実感できないので、可能であれば、今後「オンライン」などを活用すると良いと思う。